

街中で、ふと目に留まる像や碑はありますか？

市内にある彫刻作品の一部をまとめました。彫刻を訪ねて鑑賞しながら、街歩きを楽しんでみてはいかがでしょうか。

11

舟越 保武作「真心」  
【市役所庁舎入口】

新庁舎の竣工に合わせて旧庁舎の歩道から移設された二対の像「真心」。男の子像も女の子像も手元をやさしく見つめています。作者は近代彫刻に大きな足跡を残した彫刻家の舟越保武さん（1912～2002）。当時、東京芸大の教授で、⑮「鳩を持つ少年」⑰「歌暁風」などの作品を制作していただいたほか、数々の若手の作家を紹介して下さいました。

舟越先生の研究室は大学院生たちの来客でにぎわっていたようです。

舟越先生の作品「原の城、切支丹の最期」はローマ法王庁に贈られ、法王から勲章を授与されています。

28

石橋 亘作「暢」  
【新習志野公民館】

昭和55年頃、鷺沼台三丁目のアパートに何人もの彫刻家たちが寄宿し、通称「芸術村」と呼ばれるアトリエで制作活動をしていました。そのアパートとアトリエの主だったのが石橋亘さんです。石橋さんは海上郡飯岡（今の旭市）の生まれで、幼稚園に入る前には母方の実家がある鷺沼台に引っ越して来たということです。

袖ヶ浦公民館にあった石橋さんの作品「芯」は、残念ながら平成23年の東日本大震災で壊れてしまいましたが、新習志野公民館の「暢」は今もその姿を残しています。石橋さんは現在、習志野美術会の副会長を務めていらっしゃいます。

制作：習志野市教育委員会生涯学習部  
制作協力：菊田公民館 館報「銀杏」

3



竹 道久作  
「緑の風景」

【総合教育センター入口】

26



岩下恭子作  
「フィンガーウェーブ」

【葦切児童公園】

28



石橋 亘作  
「暢」

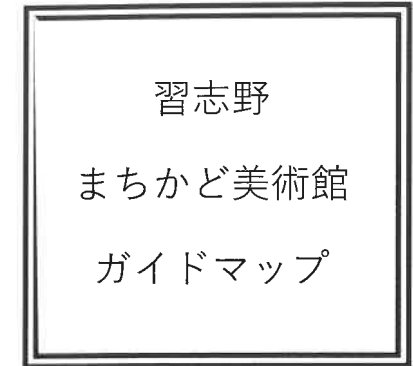
【新習志野公民館】

7



田中康二郎作  
「WARP」

【かもめ公園】



11 舟越 保武作「真心」  
【市役所庁舎入口】

	作品名	作者	設置場所(住所)
①	希望	古川 猛	実花小学校正門前 (東習志野6-7-2)
②	青春の鼓動	四中美術クラブ	マラソン道路東京電力付近 (東習志野3-12)
③	緑の風景	竹 道久	総合教育センター入口 (東習志野3-4-4)
④	はと笛	中野 滋	総合教育センター (東習志野3-4-4)
⑤	帽子をかぶった僕	酒井 良	実羽本郷公園 (実羽2-24)
⑥	思索	水谷 靖	大久保図書館入口 (本大久保3-8-19)
⑦	WARP	田中 康二郎	かもめ公園 (藤崎6-5)
⑧	非ユークリッド的形態	村田 徹	森林公園 (藤崎7-14)
⑨	鬼っ子	片岡 康夫	鷺沼台遊歩道(ハミングロード) (鷺沼2-5)
⑩	雛を抱く少年	虎竹 秀芳	菊田水鳥公園 (津田沼3-2)
⑪	真心(2体)	舟越 保武	市役所庁舎入口 (鷺沼2-1-1)
⑫	陽だまり	森田 伸	菊田遊歩道 (鷺沼1-1-1)
⑬	水の音	本郷 寛	京成津田沼駅南口広場 (津田沼5-12)
⑭	少女の夢	川村 栄	まろにえ橋 (谷津2-10)
⑮	鳩をもつ少年	舟越 保武	習志野文化ホールホワイエ (谷津1-16-1)
⑯	習志野の子らへ	青木 三四郎	津田沼公園 (谷津1-16)
⑰	番鳥(つがいどり)	青木 三四郎	津田沼公園 (谷津1-16)
⑱	踊り手	舟越 桂	JR津田沼駅南口ペDESTリアンデッキ (谷津1-16)
⑲	空を見上げる青年	舟越 桂	JR津田沼北口広場 (津田沼1-1-1)
⑳	モジリアーノ	西條 誠	谷津コミュニティセンター (谷津5-16-33)
㉑	花の姉妹	中村 為延	
㉒	フローラの像	山本 雅彦	
㉓	華	橋本 堅太郎	谷津バラ園内 (谷津3-1-14)
㉔	白いコスチューム	斉藤 高德	
㉕	春風	鈴木 徹	
㉖	フィンガーウェーブ	岩下 恭子	葦切児童公園 (谷津2-18-7)
㉗	歌暁風(うたぎょうふう)	舟越 保武	袖ヶ浦体育館 (袖ヶ浦5-1)
㉘	暢	石橋 亘	新習志野公民館 (秋津3-6-3)

4

中野 滋作「はと笛」  
【総合教育センター】



東習志野の総合教育センターの入り口に「はと笛」像はやさしく語りかけるように立っています。作者は、ブロンズ彫刻家の若き新鋭だったそうです。「鳥のさえずりや自然との調和をイメージし、はと笛を吹く少女の像を作りました」と話していました。

12

森田 伸作「陽だまり」  
【菊田遊歩道】



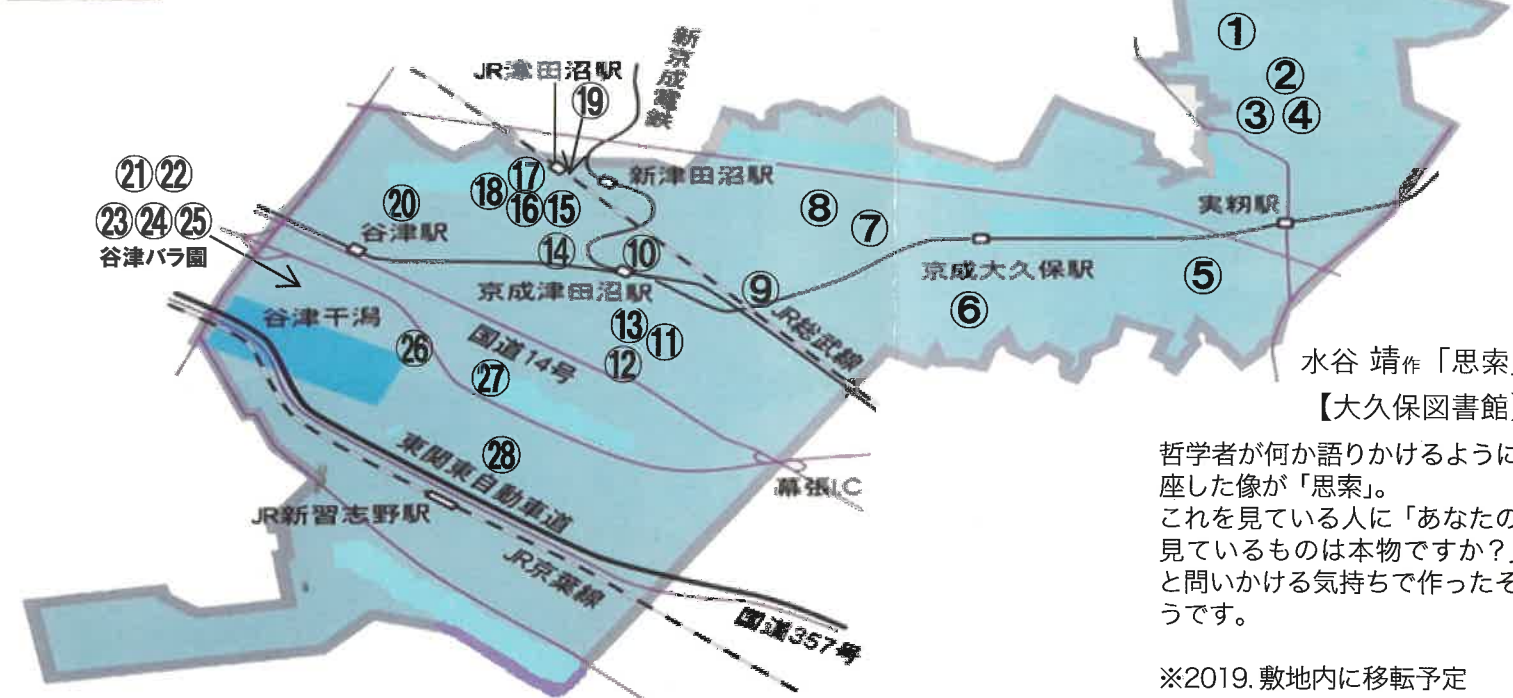
木もれ日漂う菊田遊歩道の入口に、ゆったりと自然を楽しんでいるように「陽だまり」像は横たわっています。「作品名には素直な気持ちを込めるようにしています。おてんと様の下、自然を感じながらこつこつと石を彫っていくのは、ゆっくりとした仕事でとても楽しいものです。今も遊歩道のひとつ石となり、自然の中で変わらぬ姿で居る事を嬉しく思っています」と女性作家ならではの言葉です。

10

虎竹 秀芳作「雛を抱く少年」  
【菊田水鳥公園】



菊田神社そばの菊田水鳥公園の中に少年は腰をかけて池を見つめています。膝の上の雛をそっと抱きかかえ、左手は雛が飛び出さないよう守っているのでしょうか。「水鳥公園の風景になじむもの」と池に泳ぐ水どりの雛をイメージしたとのこと。



18

舟越 桂作「踊り手」  
【JR津田沼駅南口ペDESTリアンデッキ】



作者は、舟越保武さんの次男で、世界的に活躍されています。直木賞作家・天童荒太「永遠の子」のカバーの像も制作しています。「作品は人間で、動きがほしいと思いましたが、静かな動きにしたかった。ダンサーで、美しく静かな動きを表現しました」とのことです。

17

つがいどり  
青木 三四郎作「番鳥」  
【JR津田沼駅南口津田沼公園】



JR津田沼駅からモリシアへ向かう途中、語り合う様に2羽の鳥がアーチの上に留まっています。黒御影石を使い、特定の鳥でなく猛禽類をイメージし、斜面と周りの環境に合うように作品作りがされています。石彫は機械を使わず手掘りで、彫り上げるのに2か月、イメージ作りから設置まで半年くらいかかったそうです。

6

水谷 靖作「思索」  
【大久保図書館】



哲学者が何か語りかけるように座した像が「思索」。これを見ている人に「あなたが見ているものは本物ですか?」と問いかける気持ちで作ったそうです。

※2019.敷地内に移転予定

13

本郷 寛作「水の音」  
【京成津田沼駅南口広場】



左手を耳に当てて、静かに流れる水の音にそっと耳を傾ける少女です。流れる水で濡れるのを気にするようにスカートを手でちょっと持ち上げています。スカートの柔らかな揺れるフォルムが抽象的に表現されています。